



みわを元気に

三和地域協議会ニュース 第10号 平成28年11月17日発行

三和地域の人口・世帯数
男 1,696人
女 1,779人
合計 3,475人
世帯数 1,701世帯
(平成28年10月末現在)

発行：三和地域協議会
編集：広報編集委員会

川合地域に 新たな拠点施設が オープンしました！

10月8日には「京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用条例」により「移住促進特別区域」に福知山市で初めて指定され、まは当地域への移

川合地域環境保全活動協議会（代表・土佐祐司）は、現在過疎高齢化が進む川合地域の中に、新たな拠点「川合ふれあいセンター」を設け、活性化への取り組みをスタートしました。

10月8日には「京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用条例」により「移住促進特別区域」に福知山市で初めて指定され、まは当地域への移



川合ふれあいセンター

住者でもある荒川久美子さんを「京都府里の公共員」に推薦し、その辞令が発令されました。

荒川さんには、地域の高齢者の見守り、ふれあいの場の創出などに尽力していただくとともに、移住希望者と地域住民の交流も手掛けていただく予定です。

今後京都府の移住定住促進係と連携するとともに、新しく地域内に整備された「お試し住宅」も活用しながら地域の保全に努め、元気な地域作りを目指します。



川合地区
シンボルマーク

第2回 学校統合問題住民説明会 小中一貫校導入へ地域の意見を集約

三和地域の学校を、どのような形で存続させていくのか。地域の将来に関わる大きな課題について各分野・団体での検討を踏まえ、11月9日（水）三和荘において第2回学校統合問題住民説明会を開催しました。

説明会には約40人が参加いただき、熱心に各団体の経過報告に耳を傾け、今後の課題についての貴重なご意見をいただきました。



樋口部会長から今後の方針説明

説明会でははじめに、地域協議会事務局から7月20日第1回説明会以降の経過を報告し、続いて、

説明会では、続いて、地域協議会の「学校統合問題検討部会」の樋口正明部会長から、部会での議論の経過を報告した後、地域の意見を集約する方向や要望とりまとめの概要について提案があり、出席された皆さんとの意見交換を行いました。

会場からは「小中一貫校にすれば、今後ずっと学校が存続するのか」との質問が出されました。

協議会では、統合問題検討部会においてこれらの疑問や意見も含めて検討し、最終的には三和町自治会長会での承認を経て、「小中

ました。続いて、昨年からこの問題の直接の当事者として真剣な議論を積み重ねてきた、菟原小学校、細見小学校、三和中学校のPTAから、検討の経過と、そして意思決定の内容についてそれぞれ報告いただきました。

続いて地域協議会の「学校統合問題検討部会」の樋口正明部会長から、部会での議論の経過を報告した後、地域の意見を集約する方向や要望とりまとめの概要について提案があり、出席された皆さんとの意見交換を行いました。

一貫校導入」と関連する要望事項をとりまとめ、年内に福知山市及び教育委員会に「要望書」として提出していきたいと考えています。三和地域の将来を左右するような、大きな変革であり決断です。地域の皆さんのご理解と協力を、改めてお願いいたします。

なお、このことについてのご意見やご要望があるときは、三和地域協議会事務局（Tel 0773-584130）までお寄せください。



寒い中40名の方が
お越し下さいました



みわふれあいカフェ ～お礼とお知らせ～

昨年8月から、いこいの広場でスタートした「みわふれあいカフェ」。

2年目を迎えた今年も、三和の地域の方たちをはじめ、長距離トラックの運転手さん、神戸から自転車で行き寄られた方など、いろいろな人たちにもお越しいただきました。

また8月には、カフェの1周年記念として三和会館で、バイオリン・チェロ・ピアノによる「みわふれあいカフェ1周年記念ミニコンサート」も開催し、約40名の方にお越しいただきました。

今年も、たくさんの方にご利用いただき本当にありがとうございました。

みわふれあいカフェは11月25日金曜日まで開催し、12月から3月までお休みとさせていただきます。

また、来年の4月にお会いしましょう。

楽しい企画を用意して、みなさまのお越しをスタッフ一同お待ちしております。

来年のオープンは

4月7日(金)



からの予定です。

楽しい？



学校統合問題検討部会
副部会長
熊谷 忠之

真剣にすれば、知恵が出る。中途半端にすれば、愚痴が出る。いい加減にすれば、言い訳が出る。

これは、私が最近知り合った人がブログに書いていた言葉のひとつです。

その人は、少し不器用な感じがするけど、すごく一生懸命な人だと私は感じています。改めて納得させられた言葉の一つである。

これまで三回りと半分生きてきました。いくつかの団体で様々な活動をしてきましたが、振り返って考えてみると、どうだったかな・・・確かに真剣に取り組んだ活動は、どんな困難な問題も解決策が出て乗り越えられ、楽しく充実した時を過ごせたように思う。

逆に中途半端だったり、いい加減な気持ち（乗り気でもなく仕方なく）で取り組んだときは失敗して文句ばかり言っていた・・・

このことは活動だけではなく、私は趣味で家庭菜園をしている。これでも同じことが起こっているように思う。

禁煙もダイエットも同じである。気持ちだけで結果が変わるわけではないと思うが、大きく左右すると思うのである。

分かっているならそうすればよいのだが、それがなかなか出来ないのが人間である。いろいろな難しい。でも私は常々楽しく過ごしたいと思っている。

三和ふれあいフェスティバル with 軽トラ市 開催

三和ふれあいフェスティバルが、11月12・13日に開催されました。
昨年はあいにくの雨でしたが、今年は天候にも恵まれ、清々しい秋晴れの中のスタートとなりました。
今年も昨年同様、丹波・みわコトおこし協議会主催の軽トラ市との同時開催でした。
ステージ発表では、各団体のみなさんの日ごろの練習の成果を存分に発揮していただき、フェスティバルを盛りだくさんの内容で訪れた約5千人の方たち（主催者発表）が楽しひました。
作品展示では、「芸術のときを過ぎました」

秋ならではの素晴らしい作品をたくさんの方が熱心に見入っておられました。
健康相談、農産物品評会、模擬店、軽トラ市と、



オープニングはよさこい絆



クールファザンの美しい歌声



DANCEXDANCE
のかわいいダンス



三和中学校の美しい全校合唱



福知山市東部保健福祉センターの健康体操



楽踊ばおばおの軽快な踊り



勇壮な三和八幡太鼓の演奏



元気いっぱい細見っ子合唱団



三和詩吟クラブによる書道吟



体育館でのすばらしい展示作品の散々



フィナーレはご存知三和音頭



模擬店もたくさんのお客さんでにぎわいました



京都北部4市の職員が研修

—三和地域協議会の活動を素材に—

京都府北部の福知山市、舞鶴市、綾部市、京丹後市の中堅職員約40人が、三和地域協議会の活動を素材に3日間わたる職員研修に取り組んでいます。
これは一般社団法人京都府北部地域・大学連携機構が、京都府北部の5市2町の職員を対象に取り組んでいる研修事業で、今回は第2期の事業となります。
第1日目の10月31日には三和町農業振興センターを会場に、午前中は龍谷大学の青山公三教授から「地域の現場に入る意義・地域に入る作法と手法／ファシリテーションの基本」と題した講義を受けました。
続いて三和地域協議会の岡部成幸事務局長から「三和地域での取り組み経過と現状、課題」について報告し、午前の日程を終了しました。

午後は、研修素材となる三和地域を知っていただくため、2班に分かれて川合の「お試し住宅」（市の施策で）を訪問しました。
三和地域協議会の活動は、京都府でも先進的な事例として徐々に注目を頂きつつあります。
これらの機会を生かして協議会の活動を内外にアピールしながら、議論や提案を生かして、さらに充実した活動の推進に取り組んでいきたいと考えています。
第3日目は、11月29日に福知山公立大学で開催される予定で、研修の成果として「提案：行政機関として三和町でできること」をテーマに、各分科会からグループ発表を行うことになっています。
4つのテーマ、「新たな地域自治のありかた」、「地域を元気にする活動」、「地域交通の再編」、「定住促進・移住支援」に基づき、地域協議会から大槻昭則会長、藤田まどか副会長、後藤定司部会長、和田憲幸部会長が活動報告し、それらを素材として様々な議論が繰り広げられました。
政策作りを行いました。



講義受講中の京都府北部中堅職員の方達

編集後記

この間、カレンダーをめくつばかりと思つたのに、もう新しいページをめくり、暦はもう11月の半ばになろうとしています。
まわりの景色はもう冬支度を初めている中で、月日の流れの速さにおいてきぼりをくらったような感じの私です。
さまざまな行事を通して、たくさんの三和の地域の方々とお仕事をさせていただく中で、

最近本当に思う事が、この三和町でお仕事をしたいなれば、出会えなかった方々との「縁」です。
必然なのか偶然なのか、本当にこの「縁」を通して、私はたくさんの方に助けていただき、元気をいただきました。から、お仕事をさせていただいています。こんなちいさな紙面からですが、本当に本当にありがとうございます。

